

NEWS LETTER

甲南大学 ビジネス・イノベーション研究所

就業構造からみた神戸市の都市特性と神戸空港の役割

甲南大学ビジネス・イノベーション研究所兼任研究員（甲南大学 経営学部 教授）

西村 順二

2006年2月16日、神戸市に新空港が開港されました。「神戸空港マリンエア」です。その地域経済にもたらす経済効果については、地域経済の起爆剤になるという大きく期待するものから、国際線を持たないままではさほどの経済活性化をもたらすものではないと言うものまで、多数の意見が見られます。神戸市域にもたらすその経済効果が、果たしてどれくらいのものになるのかについては民間のシンクタンクの試算に任せ、ここでは神戸市の現在の労働経済市場・雇用状況・就業構造から、神戸市の産業構造の在り方、そしてそれ故神戸空港にどのような役割を期待できるのかについて考えてみたいと思います。なお、引用されるデータは、神戸ワーク・ネットワーク（就業促進協議会：2006年）の資料に基づき、年次は各統計書の最新のものに基づいています。

先ず、神戸市の労働力の状態を見てみますと、就業者54.0%、完全失業者3.7%、家事21.8%、通学8.3%、その他12.3%となっています。これを横浜市、名古屋市、北九州市と比較してみますと、完全失業者、さらに家事及び通学の比率が4都市中最も高くなっています。就業者は他都市へ流出し、神戸市は生活する街であることが分かります。また、有効求人倍率の推移を上記4都市で見ても、平成17年度中は、神戸市は名古屋市、横浜市について、第3位であり、1.00に届かず、せいぜい0.92までです。まだまだ就業状況は厳しいということです。事業所総数では、神戸市を1として、横浜市1.54、名古屋市1.86、北九州市0.69です。従業者総数でも神戸市1に対して、横浜市1.83、名古屋市1.97、北九州市0.63となり、同じ空港を開港した名古屋に比べて、大きな差があることが分かります。なお、事業所と従業者の産業別構成を見てみますと、他都市と比べて神戸市は卸・小売・飲食の比率が高くなっています。そして2位がサービス業です。この構成順位は他都市と変わりませんが、その比率が最も高くなっています。

現在の神戸市の就業構造からみて、神戸市はソフトの比率が高い街であることが分かります。これまで神戸市は、他都市に負けず劣らず重厚長大中心の経済発展を遂げてきましたが、現状の就業構造からは、やはりソフト・サービス産業の役割が重要であることが分かります。今やこれら産業が、神戸市の一つの大きな基幹産業となっているのです。しかも神戸市は他都市と比べ生活する、生活を楽しむという属性が大きく出ています。そのような特性を持つ神戸市域の空港として神戸空港は、何を指すべきなのでしょう。観光に関わる事業や生活支援に関わる事業などソフト・サービス産業の更なる促進のための都市基盤、空港自体に魅力をつけその吸引力の増大を図ること、市民の新たなコミュニティ移動・交通基盤等が考えられます。もちろん、現状からだけではなく、在り得るべき理想の姿を求めることも必要です。医療産業都市として、またものづくりの街として神戸市が発展していく上での役割の定義付けも必要でしょう。ここではあくまでも現状の就業構造から、一つの方向性を考えてみたものです。今後、神戸空港がどのような地域経済の都市インフラストラクチャーとなっていくのか、皆で見守りたいと思います。

2006
vol. 04

甲南大学ビジネス・イノベーション研究所 第2回研究会

1. 研究会の概要

モバイルは昨今とみにコンテンツが充実し、また、ブロードバンド化により、よりビジネスへの応用の可能性が広まってきている。このモバイル技術がビジネスにいかに応用されるかについて第2回研究会を開催した。

- ・ 製造業：現場実績収集の他に設備保全への応用など
- ・ 小売流通業：食品トレーサビリティシステムへの組み込みなど
- ・ サービス業：予約などの他に仲間ネットへの拡大など
- ・ 公共分野：各種情報提供、施設予約、各種相談受け付けなどの分野における応用の可能性を探っていくことを目的とした。



研究会は下記日程で開催された。

日 時：2006年2月24日(金)

場 所：甲南大学211講義室（2号館1階）

テーマ：ITによる経営プロセス革新 –モバイル技術のビジネスへの応用–

研究会のスケジュールは下記のとおりである。

- (1) 13:30-13:35 開会のご挨拶
- (2) 13:35-14:20 「モバイル・マーケティング」
大阪府立大学 経営情報システム研究所 所長、経済学部 教授
甲南大学ビジネス・イノベーション研究所 客員特別研究員 **竹安 数博氏**
- (3) 14:25-15:10 「モバイル・ニュービジネス（サーベイ）」
日本学術振興会 特別研究員、大阪府立大学 大学院 **樋口 友紀氏**
- (4) 15:10-15:25 休憩
- (5) 15:25-16:10 「モバイルを用いた食品トレーサビリティシステム」
阪急ホールディングス株式会社 グループコンプライアンス統括部長 **石井 康夫氏**
- (6) 16:15-17:00 「企業におけるインターネット活用成功例とその秘訣 –スポーツ業界におけるBtoBの例」
ゼット株式会社 システム部 部長 **瀬山 正氏**（早稲田大学 アジアIT戦略研究所 客員研究員）

各テーマの概要は次のとおりである。

- (1) 「モバイル・マーケティング」
インターネット接続携帯電話（ケータイ）の登場により、マーケティングの新たな展開が始まった。ここではケータイの長所と欠点、各場面に広がるケータイの使い方、ケータイにおける提供サービスの分類等を押さえた後、モバイルを用いたクーポン・マーケティングについてその特徴を従来のマーケティング手法と比較して分析した。最後にケータイによる産業界へのインパクトを物流、生産管理分野での事例を元に解説した。
- (2) 「モバイル・ニュービジネス（サーベイ）」
モバイルを用いたニュービジネスが盛んになってきている。ケータイ・バーコードを用いた顧客管理、クーポンを用いたプロモーション、2次元バーコードの利用、ケータイ通販、おサイフケータイ等枚挙に暇がない。今回はこれらの動きをサーベイしつつ、ニュービジネス例を紹介した。
- (3) 「モバイルを用いた食品トレーサビリティシステム」
生産履歴や流通経路のはっきりとした安全で安心な食品の購入を求める消費者ニーズが高まっている。一方、青果物に関しては生産物の記帳作業の負担が大きく実用化が遅れている。そこで携帯電話を活用した生産履歴の入力システムが注目を集めている。ここでは、モバイルシステムに求められる生産者や消費者の意向をアンケートにより調査し、システムに求められる性能要件等を分析した結果を報告した。

(4) 「企業におけるインターネット活用成功例とその秘訣—スポーツ業界におけるBtoBの例」

1998年 スポーツ業界で初のインターネットを利用した受発注システム稼働（Z-NET）

2000年 NHK BSスペシャル番組「なにわのMr.コンピューター」松田氏個人のスペシャル番組のなかで、Z-NETが紹介された。それらを中心にシステムの店舗展開事例を説明した。

講師略歴は下記のとおりである。

- 竹安 数博氏 京都大学工学部数理工学科卒業、京都大学大学院工学研究科修士課程修了
大阪府立大学 経営情報システム研究所 所長、経済学部 教授 工学博士
甲南大学ビジネス・イノベーション研究所 客員特別研究員
- 樋口 友紀氏 大阪府立大学経済学部卒業、日本学術振興会 特別研究員、
大阪府立大学大学院経済学研究科経済学専攻
- 石井 康夫氏 京都大学工学部交通土木工学科卒業、京都大学大学院工学研究科修士課程修了
阪急ホールディングス株式会社 グループコンプライアンス統括部長
(ITC、中小企業診断士、技術士)
- 瀬山 正氏 サンスター歯磨を経て、現在 ゼット株式会社 システム部 部長
1998年にはスポーツ業界で初のインターネットを利用した受発注システム稼働（Z-NET）

2. 研究会での質疑

研究会は総勢38名の参加で行われた。

主な質疑内容は次のとおりである。

(1) 「モバイル・マーケティング」

会場では特に質疑はなく、懇親会場においてモバイル・マーケティングの対象分野の可能性について質疑があった。

(2) 「モバイル・ニュービジネス（サーベイ）」

Q：システムの導入効果は？

A：本日取り上げた事例ではないが、b-BOXのシステムを焼肉チェーン店が利用している。8000人以上の登録者で効果もそれなりに上がっているとのこと。b-BOXシステムはうまく使えば店舗単位でのプロモーションに使えるなど大きな可能性を秘めている。

また、m-tripの件も、旅行中にアンケート結果がフィードバックできるなどの利点があり、生かし方次第では、今後、より大きく展開できるのではないと思われる。

(3) 「モバイルを用いた食品トレーサビリティシステム」

Q：安全に関するトレーサビリティの話は伺ったが、おいしさに関してのトレーサビリティの実用性は？

A：おいしさについては個人差が大きく難しい。また作る側の農業哲学も入ってくるので今回は分析していない。

Q：第三者認証があればトレーサビリティは必要ないか。

A：認証する機関もトレーサビリティの仕組みをバックに持っておかないと認証しにくい。そのためシステムは必要。

(4) 「企業におけるインターネット活用成功例とその秘訣—スポーツ業界におけるBtoBの例」

Q：単品管理代行もされているが、マスターにない商品のコードが入ったらどうするか。

A：顧客側からJANコードのマスター情報を送付してもらう。

Q：今までマスターが入ってなく、POSレジが使えないという状況から脱したら、POSレジは不要にならないか。

A：今の単品管理代行システムでは売上の単価が入らないので、その部分を入れつつある。

Q："お客様とともに進化するZ-NET"ということが言える。

A：まさにその通り。今後標語にしたい。



2006年度ビジネス・イノベーション研究所 シンポジウム・研究会のお知らせ

第3回シンポジウム

テーマ：ビジネス・プロセス革新—企業持続的発展の源泉を探る—

日時 2006年7月8日(土)

場所 甲南大学 甲友会館 大ホール

基調講演

「価値創造とビジネス・プロセス・マネジメント」 李 健泳氏 (新潟大学経済学部教授)

事例報告

「ロジスティクス改革によるビジネス・プロセス革新事例」

浜崎 章洋氏 (佐川急便㈱ サプライチェーンロジスティクス事業部)

「環境ビジネスの最先端(仮題)」

石倉 理有氏 (㈱堀場製作所 新事業統括センター)

「プロジェクトマネジメントの実際(仮題)」

清水 弘之氏 (㈱竹中工務店) (予定)

「交通コミュニティカードによる地域活性化の事例」

西田 純二氏 (神戸カード協議会)

パネルディスカッション

「ビジネス・プロセス革新の実現に向けて」

コーディネーター 長坂 悦敬氏 (甲南大学ビジネス・イノベーション研究所兼任研究員
甲南大学経営学部教授)

パネラー 李 健泳氏 (新潟大学経済学部教授)
浜崎 章洋氏 (佐川急便㈱)
石倉 理有氏 (㈱堀場製作所)
清水 弘之氏 (㈱竹中工務店) (予定)
西田 純二氏 (神戸カード協議会)

※プログラムについては変更される可能性があります。

ビジネス・イノベーション研究所では、2006年度も引き続きシンポジウムや研究会を開催していく予定です。詳細はニュースレターやホームページでご案内いたします。ご興味のある方は下記ビジネス・イノベーション研究所までお問い合わせください。

 **甲南大学**
ビジネス・イノベーション研究所

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1
TEL.078-435-2754 FAX.078-435-2324
E-mail : bi@center.konan-u.ac.jp
<http://www.konan-u.ac.jp>

発行日/2006年(H.18)3月9日発行